

冒険心が飛翔する“100人の戯空間” 〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F
ウイング フィールド TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312
 ウイングフィールド公式サイト URL <http://wing-f.main.jp/>

2月末日よりウイングフィールドのメールアドレス、ホームページアドレスを変更いたしました。
 Mail : office@wing-f.main.jp <http://wing-f.main.jp/>

ウイングフィールド提携公演
 作・演出／秋山豊

旅劇

「**独り芝居 芸人列伝祭り～大阪再び!～**」

4/4(水) 7:00 ◇
 6(金) 4:00 ○ 出演／だらく 館
 7:00 ◆ ◇ …『贗作・ミスワカナ』
 (以上3公演公開ゲネ) ○ …『贗作・一条さゆり』
 7(土) 1:00 ◇
 4:00 ◆ ◇ …『贗作・トニー谷』
 7:00 ○ 4/4(水) …中川圭永子生誕祭 公開ゲネに加えてお楽しみ企画がございます。
 8(日) 1:00 ◆
 4:00 ○ 料金／1公演 3,000円 2公演 5,500円 3公演 8,000円
 7:00 ◇ 公開ゲネ 1公演 1,500円
 ゲネ・本公演フリーパス(相合橋 正宗屋1ドリンクサービス付き) 10,000円
 学生割引 2,000円(要学生証)

「**大竹野正典劇集成**」を楽しむ 一緒に読んでみよう6

24(火) 7:00 「**山の声 — ある登山者の追想**」
 くじら「本」会議
 *予約制 会費／大人 1,000円 子供 500円

作・演出／FOベレイラ宏一朗

常劇

「**どこよりも遠く、どこでもあった場所。**」

27(金) 7:30 ◆
 28(土) 2:00
 7:00 出演／プロトテアトル
 29(日) 11:00
 3:00
 料金／一般前売 2,500円 一般当日 3,000円
 U-22 前売 2,000円 U-22 当日 2,500円
 U-18 前売 1,000円 U-18 当日 1,500円(要証明証)
 ◆ … 初日割(チラシ、ホームページ等でご確認下さい)

演劇の時間ですよ

武田 一度

冬季オリンピックで日本選手がメダルを獲得するたびにスポーツ紙を買い込む日々。

愛国心がグラグラ煮え立ち興奮の日々。「若い人達はよくあんなシンドそうな事をよくやるなあ～」と感心していた。

コメントにこたえる若い選手達の明快な応答に品すら感じて、私の若い頃は彼等よりもっと「アホ」だったのは確かです。

「メダルを獲得する人はすごく賢いんだな」と思いつつ、日本の若者の未来は明るいと感じ入っていた。

演劇の現場はかなり低調な時期が続いていますが大丈夫です。こんなに凄惨な若者の時代が来ているのだから……。

私達が劇団を創立した頃、1970年代半ばは今よりもっと寂しい演劇状況でした。

当時のシティ雑誌の調べでは、大阪の新劇は22劇団、アングラと呼ばれた前衛劇団は5つ程度でした。

新劇以外は全てアングラ劇団と名付けられました。

小スペースで上演する小劇場劇団はほとんどありませんし、東京で起こった小劇場運動という新劇ではない小さなスペースで費用も安く上演できる新しい演劇の波の運動すらありませんでした。

アングラは演劇づくりの根本概念を問いかける表現活動で「演劇とは何か?」根本から問いかける運動でした。社会状況も政治の時代でゆれ動い

ていました。学生たちも過激で世の中が全て失ってました。

学生運動から流れて来た役者が多く理屈の多い若者ばかりで演劇論と政治論がゴチャ混ぜの演劇の状況でした。

作品性や演劇の洗練などおかないの世界で、お客さんも過激で熱い人が多く、ひょっとして欲求不満の解消に演劇を見に来ているのではないかと思うムチャクチャな状況でした。

カオスの中で新しい演劇の方向を見い出そうという時代だった気がします。

演劇の自由とか解放とかスローガンはいいのですが、演劇は時間と間合の世界です。

入場料をもらう以上は混沌とした芝居を見せてもすぐ飽かれます。

いつの時代でも、若者は最先端の流行や方法論を探しているもので、私達も演劇の革命的变化に「斬新」を見い出したものです。

犯罪友の会という劇団名ゆえ、県営の青少年会館すら受付拒否に合い、旗上げどころじゃなくなり野外でやむなく上演する事になった。

大学の先輩が経営する幼稚園のグラウンドに劇場を組んだ。役者のほとんどは大学の後輩達だった。

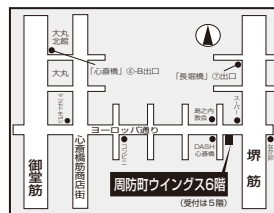
丸太等組んだ事がないので悩みながら上演したが悔しくて以後四十数年野外劇にハマッて行ってしまった。

物語性の解体というスローガンで行き着いた地平は演劇のポエム化だったに過ぎない。

現代でも野田秀樹や多くの劇団の主流になっているがストーリーがないので作り易いがこれは作劇の詩劇に入るもので、物語の人物像の細かい描写やほろ苦い人生の味わいや苦悩を描く演劇の姿ではない。

「解がわからない」という観客を無視してはいけません。今こそポエム演劇を捨て誰もが解る物語の持つ奥深い世界に入っていくませんか。

(劇団犯罪友の会・主宰・大阪野外演劇フェスティバル実行委員長)



次代を担う表現活動を、微力ながら支援します。
 すおうまち **周防町ウイングス**